

『学科専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 日本語日本文学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

日本語日本文学科では、学科の設ける日本語学・日本文学・日本語教育学に関する授業科目（ただし、外国の言語・文学・言語教育との対照に関する授業科目を含む）、および卒業論文作成のための授業科目を履修し、授業内外の活動を通して自身の知見と体験を豊かにし、卒業時に次のような能力と姿勢を身につけることを期待します。

1. 過去から今日までの日本の言語・文学・文化に関する、正確で深い理解。さらに日本の言語・文学・文化を、世界のさまざまな言語・文学・文化との関連において捉えるグローバルな視野。そうした理解と視野の上に、日本の言語・文学・文化を世界に向けて発信し、多様な文化的背景をもつ世界の人々との相互理解を促進する姿勢。
2. 日本の、また世界の言語・文学・文化の多様性を知ることによって養われる、多様な他者を理解し、協調する姿勢。また、既成の枠組みにとらわれず柔軟に思考する力。
3. 日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野において、考察すべき問題を発見する力。その問題の解明に向けて、信頼できる情報を適切な方法で収集する力。それらの情報に基づき論理的に思考する力。思考の結果を的確に表現する力。そのようにして自らの意見を他者と共有し、他者との議論や協働を通じてよりよいものに高める姿勢。
4. 学問的訓練を通じて身につけた、問題発見・情報収集・論理的な思考・的確な表現・他者との協働という能力を、身近な、また社会的な問題に適用し、自らが置かれた立場でさまざまな問題に対応できる力。また、そうした力をいっそう伸ばすべく、生涯にわたって学び続ける姿勢。

『学科専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

2. 日本語日本文学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

日本語日本文学科では、学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野に関する専門知識を修得し、複数の分野における標準的かつ基本的な研究方法を確実に身につけ、学部における知的訓練の集大成として卒業論文を作成するために、次のような方針で教育課程を編成します。

1. 日本語学・日本文学・日本語教育学の各分野において、概説類、演習類、特講類、自由選択科目という4つの授業科目群を設けます。概説類は各分野の基礎的な知識や理論を学ぶ科目群。演習類は各分野の研究方法を身につける科目群。特講類は各分野についてより専門的に学ぶ科目群。自由選択科目は各分野の隣接領域などを幅広く学ぶ科目群です。これらを2年次から4年次にかけて並行して履修するよう、カリキュラムを編成します。その際、履修モデルの提示と履修ガイダンスを通じて段階的な学修を指導します。
2. 卒業論文作成のためのゼミナールである研究法実習を4年次の必修とする以外は、全科目を選択必修または選択とします。これにより学生は各自の関心に応じた履修計画を立てることが可能です。ただし、複数の学問分野をバランスよく学ぶよう一定の履修条件を課します。
3. 履修モデルは次のとおりです。2年次は概説類を中心に学び、演習類を1科目履修。3年次は特講類を中心に学び、演習類を2科目履修。4年次は特講類を中心に学ぶとともに、自らの専門分野を選択して研究法実習を履修。このように基礎的な知識の修得に始まり、段階的に専門性と研究能力を高め、卒業論文へと学修を進めます。
4. 卒業論文は、自分が選んだ研究テーマの分野の指導教員から指導を受け、4年次に作成、提出します。学部における学修の集大成として、少人数制のきめ細かな指導体制を敷きます。

『学科専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

3. 日本語日本文学科の進学生・編入学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

日本語日本文学科では、学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づく授業科目を履修し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に見合う能力・姿勢を身につけて行くための素地として、高等学校での学習を通じて、入学前に次の能力・資質を身につけていることを期待します。編入学生に対しても、入学前の学業を通じて同様の能力・資質を備えていることを求めます。

1. 日本語日本文学科が提供する3つの学問分野、日本語学・日本文学・日本語教育学は、いずれも言葉、人間、社会への関心を基盤としています。そのため、言葉に関わる科目である国語、英語（外国語）をはじめ、社会科などの文系諸科目の学習を通じて、言葉・人間・社会に関する正確な知識と、知的好奇心を身につけていることを求めます。
2. 上記3つの学問分野はまた、いずれも学問として論理性を備えています。そのため、数学、理科などの理系諸科目の学習を通じて、論理的思考に慣れていることを求めます。
3. 上記3つの学問分野はまた、言葉を読み取ること、言葉によって表現することに関わっており、豊かな感性や他者への共感力を必要とします。そのため、国語や芸術科（音楽、美術等）の授業、課外活動、授業外の読書などを通して、自ら表現したり、作品を鑑賞したりする経験を重ね、豊かな感性や共感力を育てていることを望みます。
4. 日本語日本文学科の演習、実習などの授業では、学生どうしの議論や共同作業が重要な位置を占めます。そのため、課外活動、社会活動などを通じて多様な人と接し、一定の社会性とコミュニケーション力を身につけていることを望みます。